14. 2ハ-102
1200501165686
ハ2ハ
02

岐阜市農會報告

第二号

始

岐阜市農會報告第二號
昭和八年十二月

水田裏作の利用
蔓薹栽培改良成績報告

岐阜市農會

14.2.-102

序

今日本國民の七割を占むる五千四百萬の農民は何か新しい事實の發生を待望してゐる、幾近農業界の現狀を見る時、資本主義經濟の發達は商工業偏重の過程を辿り之が爲めに農村は各種の方面に激烈なる影響を蒙るに至り、政府に於ても農村經濟更生計畫の樹立と共に、農村負債整理組合法、米穀統制法等の實施を以つて之が更生を計るに至りしが依然たる農產物價の下落、而かも其の反面購買肥料並に農家生活必需品の高騰に依る農家經濟の不釣合、及び公課負擔の均衡運動等となつて全國的農政問題と化した、かゝる時これが農村窮乏を救濟するものは偉大なる人格識見を有する農政實行家の出現と、農民自身の協力、團結に依つてのみ農家の更生は期せられるのである。從つて農民の覺醒を要することの切實性は今や全國系統農會の使命と共に極めて重要なるものが有る、古來他力依存に慣れたる爲め動もすれば路傍に蹂み躙られたるが如き農本主義が再び花咲くことは容易でないとしても異變時に際して常に國士を死守し、世界的名譽を保持して來た全國農民は益々其の業を勵み一路本業に精進するの奉公的一大覺悟を必要とするのである。

近時都市の膨脹は隣接町村の編入となり從つて擴大なる農耕地を抱含するに至り都市農會の使命は益々重く必要缺く可らざる機關となつた、即ちチューネンの農業圈は益々擴大性を示すに至つたのである。

當岐阜市は曩に三ヶ村を合併し三千餘戶の農家、一千二百有餘町歩の農耕地を有し之れが農業の改善と指導には專心農會技術員をして督勵の任に當らしめ都市農業の合理的發展と農家の利益增進及農業經濟の充實を期せり本書に報告する事項は本市西南部地方を中心とせる不經濟極まる一毛作田なる休閑田を改良して二毛作田として集約的農業奬勵

の結果にして、水田裏作蓎蓫栽培の本場として其の名聲を博するに至れる顚末なり、今茲に印刷に付して當業者の參考に資せんとす。

岐阜市農會長　松尾國松

水田裏作の利用
蓎蓫（ナタネ）栽培改良成績報告

目次

一、工藝農産物としての蓎蓫の現狀……一
二、本市農會の奬勵結果……二
三、蓎蓫の品種改良……四
四、蓎蓫栽培指導地の設置……五
五、蓎蓫栽培競技會の成績……五
六、蓎蓫叺の共同購入並に蓎蓫の共同販賣……九
（一）蓎蓫叺の共同購入
（二）蓎蓫の共同販賣
附錄
第一　支那に於ける蓎蓫栽培の概況に就て……一三
一、支那に於ける蓎蓫の收量

二、最近の出廻狀況
三、本邦への輸出額
四、前年期に於ける生產額及國別輸出
五、支那漢口地方に於ける蔓薑收量
六、支那蕪湖地方に於ける蔓薑收量
第二　本市水田裏作に有利なる蔓薑の栽培法に就て……二五
一、氣候と土質
二、品種
三、種子
四、育苗
五、定植
六、肥料
七、管理
八、收穫
九、販賣
第三　工藝農作物栽培法の概要……二八

水田裏作の利用

蔓薑栽培改良成績報告

一、工藝農産物としての蔓薑の現狀

近年蔓薑油工業の盛んとなるにつれ其の原料たる蔓薑は年々不足を告げ且支那からの輸入圓滑ならざるの實狀に有りしが栽培は將來益々有望視さるゝに至り工藝農産物として重要なる位置を占むるに至つたのである。

今本邦工藝農産物栽培の現狀をみるに其の總作付面積二三三、五〇六、一二ヘクタール總價格九〇、一八〇、四〇〇圓に達し其の種類別をみれば即ち左表の如し

種別	面積(ヘクタール)	價格
蔓薑	七四、六六一、〇三	八、五七八、六一八圓
葉煙草	三六、〇三一、〇四	四七、二〇七、五九九
甘藷	二四、五九〇、一八	七、一六二、六四五
薄荷	一五、二一二、四三	三、二六四、五一四
煙草	一、〇〇〇、〇〇	三〇、〇〇〇
除虫菊	一二、六五三、三六	三、二四九、四八〇
三椏	一二、三一六、三六	一、四八九、〇三〇
蒟蒻	七、七八五、六二	三、八六九、一〇〇

胡麻	四、七五一、九〇
大麻	六、八三六、五三
蘭麻	五、二八四、九六
實綿	六三八、七八

即ち其の作付反別は葉煙草の七萬五千ヘクタールを最高として葉煙草の三萬六千ヘクタール甘藷の二萬五千ヘクタール煙草、除虫菊、三椏各一萬余ヘクタールに付其の他に一萬ヘクタールに達するもの無き現狀に有り更に其の價格に於ては葉煙草は實に第二位を占め八百五十七萬八千六百十八圓の多きに達せり。

更に本縣に於ける現狀を講究するに昭和元年迄は年々減少しつゝ有りしが其の後漸次增加の傾向を示し昭和六年本縣産業統計によれば作付反別千百三十四町歩收穫高一万五百三十七石其の價格約十萬圓を産するに至れり。

二、本市農會の奬勵結果

本市に於ける水田は長良を除けば日野本莊共に濕田にして特に本莊地方は水田裏作は何等考慮されず水稻の一作栽培のみにして土地利用は實に不經濟の狀態に於かれたり、從つて之が裏作栽培に依り土地の經濟的利用としてクヌ田栽培に依る葉煙草を奬勵し專任技術員をして各部落を巡回指導せしめ昭和七年度より之が增殖と裏作の改良を督勵せり、優良品種の無償配付並に栽培法の改善收穫葉煙草の共同販賣を行ひしが合理的指導を行ひたる結果今日に於ては一毛作田は殆んどなきに至り且つ本莊地方は本縣に於ける葉煙草の主産地として大に名聲を博するに至れり今其の結果を示せば次の如し

年度	作付面積	反當收量	實收高	價格	備考
昭和六年	一三、九町	六石	八三、四石	一、二〇一、六八圓	
同七年	二〇、五	一、三	二六六、五	四、七七五、六八	長良一町二反歩を含む
同八年	三五、〇	一、三	四五五、〇	八、一五三、六〇	

即ち本表の示す如く昭和六年本市統計の示す所に於ては作付反別十三町九反歩なりしが七年度に於て各農業基礎團体長よりの調査の結果は二十町五反歩にして其の收穫高に於ては八十三石四斗なりしに昭和七年度に於ては二百六十六石二斗に增加を示せるものと云ふ可きものなり、特に反當收量の增加せるは作付面の增加と共に技術の進歩に依り反當收量の增加は昭和八年度葉煙草栽培競技會を開催したる結果に依るものなるも六年迄に於ける收量は反當六斗にして實に見るものなかりき、昭和七年度新品種吾妻種の栽培に依り大に之が面目を一新せるものなり。

更に販賣價格に於ては從來は個人販賣にして仲間商人に搾取せられ其の價格も最高一叺當り七圓二十錢なりしが本會に於ける共同販賣の結果は三等建値一叺八圓九十六錢に豐年製油株式會社に販賣せり。

尙之が栽培の部落的狀況を示せば次の如し

一、葉煙草作付面積

年別 / 部落別	舊岐阜本莊	日野長良合計
昭和六年度	一二五町〇〇	七三町〇〇 一 一三九町〇〇
同七年度	一四三、〇〇	一二五、〇〇 一二〇、〇〇 二〇五、〇〇

同　八年度	一五五、〇〇	三〇七〇、〇〇

二、收　穫　高

年別＼部落別	舊岐阜本莊	日野長良合計
昭和六年度	七五〇	四五三八	八二四〇
同　七年度	一八、五九	一六、二五	二六六、五〇
同　八年度	二〇、一五	一六、六四	四五五、〇〇

同　八年度	一二八、〇〇	一四七、〇〇	三五五〇、〇〇

三、葁薹の品種改良

本市に於ける葁薹作品種は從來は殆んど在來種にして成績不良なりしに依り昭和七年度より之が優良品種の普及と統一を期せんが爲め左記品種を選定し之が各農業基礎團体各農家に無償配付を行ひ極力之が増産と品種の改良を行へり。

優良品種（原種）配付數量

年別＼品種別	美濃改良	吾妻種
昭和七年度	一五〇瓩	二五〇瓩
同　八年度	—	七〇〇

昭和八年度に於ては美濃改良は奬勵せずまづ吾妻種のみとせり。其の理由は美濃改良は本市土壌に不適にして其の成育不良なりし結果にして本市としては將來に於ても吾妻種のみとして統一せんとす。當配付數量は各團体の作付面積に證して配付し一反當り二勺蒔を基本とせり。

四、葁薹栽培指導地の設置

葁薹の合理的栽培方法指導の爲め本莊地内に一ケ所之が指導地を設置し技術員をして巡回指導を行はしめ之が實績を擧ぐべく昭和八年度事業の一端として着手せり

記

一、場　所　岐阜市本莊字鍵屋
二、栽培面積　一反五畝歩
三、擔當者　藤澤一作

五、葁薹栽培競技會の成績

葁薹の栽培面積は昭和七年度より急激に増加し水田裏作としてば今や本市第一位の作物となれり、從つて之が栽培技術の進歩に供ひ其の收穫高は益々多きを加へたり。本會は昭和八年度新規事業として葁薹栽培競技會を開催せり、其の結果左記の如し。

記

一、出品點數八六點

二、入賞點數及査定標準

等級	點數	査定標準
優等	三	二石六斗以上
一等	九	二石三斗以上
二等	一九	二石　以上
三等	二〇	一石七斗以上
計	五一	

三、入賞者明細書左の如し

等級	收穫高	品種名	農業基礎團体名	氏名
優等	三、一〇〇	吾妻種	鍵屋	藤澤一作
同	二、六五〇	同	島田	金森勘次郎
同	二、六〇〇	同	中村	高橋總次郎
一等	二、五〇〇	同	同	高橋彌三郎
同	二、五〇〇	同	西部	葛西二郎
同	二、五〇〇	同	鍵屋	篠田勘次郎
同	二、四〇〇	同	同	葛西利文
同	二、四〇〇	同	鍵屋	篠田榮二郎
同	二、三五〇	同	島田	松波彙吉
同	二、三五〇	同	西部	伊藤金作
同	二、三〇〇	同	中村	高橋仲一
同	二、三〇〇	同	島田	松波源太郎
二等	二、二七〇	同	長良	笠原覺次郎
同	二、二七〇	同	同	澤田仙太郎
同	二、二〇〇	同	西部	葛西柱作
同	二、一七〇	同	白栗	篠田辰五郎
同	二、一五〇	同	同	篠田喜三郎
同	二、一五〇	同	西部	邊田儀三郎
同	二、一五〇	同	北長森村	澤田善松
同	二、一三〇	同	長良	瀬村繁太郎
同	二、一〇〇	同	西部	伊藤源彌
同	二、一〇〇	同	長良	田中多一
同	二、一〇〇	同	同	毛利嘉一
同	二、〇八三	同	中村	高橋新一

同	同	二、〇五〇			
同	同	二、〇三〇			
同	同	二、〇二五			
同	同	二、〇〇〇			
同	同	二、〇〇〇			
同	吾妻	二、〇〇〇			
同	同	二、〇〇〇			
三	等	一、九五〇			
同	同	一、九五〇			
同	同	一、九〇〇			
同	同	一、九〇〇			
同	同	一、八九〇			
同	同	一、八七〇			
同	同	一、八五〇			
同	同	一、八五〇			
同	同	一、八三〇			
同	同	一、八二〇			

同	同	一、八〇〇			
同	同	一、七三〇			
同	同	一、七〇〇			
同	同	一、七〇〇			
同	同	一、七〇〇			
同	同	一、七〇〇			
同	同	一、七〇〇			
同	同	一、七〇〇			
同	同	一、七〇〇			
同	同	一、七〇〇			
同	同	一、七〇〇			
同	同	一、七〇〇			

六、蠶薹叺の共同購入並に蠶薹の共同販賣

（一）蠶薹叺の共同購入

農産物販賣合理化の一として農家に於て生産したる蠶薹を希望を取纏め本會に於て共同販賣を行ふ事とせり即ち共同販賣は全部生産檢査を行ひだるものを取扱ふに付き檢査用として蠶薹叺の斡旋を行ひ之が共同購入をなし農家の便益を計れり、其の數量は左の如し。

同	同	栗	白	棚橋百太郎	
同	同	良	長	後藤善次郎	
同	同	屋	鍵	吉村與市	
同	同	太郎	同	篠田重太郎	
同	同	助	同	戸崎柳助	
同	同	郎	同	藤澤賢太郎	
同	同	三	西	髙西七三郎	
同	同	門	長	林助右工門	
同	同	野	日	坂井鶴吉	
同	同	策	同	上田信策	

同	同	栗	白	安藤庄松	
同	同	次郎	白	篠田辰次郎	
同	同	三郎	長	毛利繁三郎	
同	同	太郎	中	松波鎌太郎	
同	同	吉	西	葛西末吉	
同	同	次郎	同	笠井鉄次郎	
千	手	七	千	松波彌七	
同	同	一郎	鍵	吉田末一郎	
同	同	進	同	加藤輝之進	
西	部	市	西	小塩與市	
中	村	吉	中	高橋豊吉	
白	栗	六	白	篠田甚六	
長	良	吉	長	後藤岩吉	
同	同	彌	同	堀吉彌	
西	部	郎	西	葛西彦四郎	
白	栗	松	白	西垣豊松	
幸	安	吉	幸	中島太吉	

年度別	數量	購入先
昭和七年度	二一一叺	山縣郡農會
同　八年度	三三〇叺	山縣郡農會

(二)蠶蛹の共同販賣

蠶業は檢査濟のものを左記樣式に依り各農業基礎團体にて取纏め入札販賣を行へり

蠶蛹共同販賣斡旋申込書

販賣日	集積場所	總數	一等	二等	三等	等外	備考
月　日							
月　日							
計							

右ハ農會共同販賣斡旋規程ニヨリ共同販賣相成度見本品相添へ此　段申込候也

昭和　年　月　日

農業基礎團体長

岐阜市農會長　松尾國松殿

蠶蛹共同販賣成績

昭和七年度及昭和八年度取扱數量左の如し

年度別	一等	二等	三等	等外	合計
昭和七年度	—	八六叺	一二二叺	一叺	二〇九叺
同　八年度	一八叺	一八三叺	一一三叺	—	三一四叺

尙、其の品種別數量を示せば次の如し

年度別	美濃改良	吾妻種	合計
昭和七年度	二二叺	一七七叺	二〇九叺
同　八年度	七叺	三〇七叺	三一四叺

檢査蠶蛹受入規約

一、品　質

イ、粒形不同に渉らざるもの

ロ、皮の薄きもの

ハ、異種混合せざるもの

ニ、固有の色澤を失はざるもの

ホ、生產年度相違のものを混合せざること

二、乾　燥

水分一〇%以内のものとすること
但し一〇%以上のものにして貯藏に堪へざるものは受入せず

三、調　製

未熟粒、發芽粒(口カケ)腐粒、死粒、土砂、塵埃其他の夾雜物を混入せざるもの

四、容量及包裝

イ、正味百斤入とすること
ロ、叺は重量約七百匁のものを用ふること
ハ、麻袋は重量約二百五十匁以上にして強靱なるものを用ふること
ニ、麻袋入は必ず麻糸を以て縫合すること
ホ、包裝はなるべく麻袋を使用すること

五、格差及び建値

三等を建値とし二等は三等より百斤に付十三錢一等は三等より百斤に付二十六錢の格上とす
但し等外は三等より百斤に付金貳拾錢以上の格下とす

六、受　入

イ、所定の新叺入のものに對しては一叺に付金五錢の買增をなすこと(七百匁以上の叺)
ロ、麻袋入りは袋代を加算して價格を協定すること(濠洲の一空は金七錢買增すること)
ハ、不良の叺及麻袋を用ひたるものは受入せず
ニ、檢査蓆臺は未檢査蓆臺に比し百斤に付金拾五錢以上格上をなすこと

支那に於ける蓖麻栽培の概況に就て

一、支那に於ける蓖麻の收量

本年度支那に於ける蓖麻收穫高は昨年度蓖麻相場の不味にして各産地農家の他に乘り替へるもの相當あり作付反別の減少したると本春以來冷氣甚だ敷かりしに加へて降雨續きたる爲め不作にて收穫は平年に比し遙に減少するものと觀られ居れり、而して其の收穫高は統計の徹すべきものなく詳ならざるも上海商務事務所報に依れば大体左の如し

昭和八年度支那蓖麻收穫數量(單位袋)

産地名	昭和七年度		昭和八年度	
		不詳		三五、〇〇〇
九江		一〇〇、〇〇〇		四〇、〇〇〇
蕪湖		九〇、〇〇〇		七〇、〇〇〇
溫州				
(瑞安、平陽を含む)				
常熟		五五、〇〇〇		四五、〇〇〇
蘇州		六〇、〇〇〇		六五、〇〇〇
同里、吳江		五〇、〇〇〇		五〇、〇〇〇
角里		七五、〇〇〇		七〇、〇〇〇
崑山		一〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇

平湖	一八〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇
嘉善	不詳	三〇、〇〇〇
寧波	同	一〇、〇〇〇
上海及浦東	四〇、〇〇〇	四五、〇〇〇
合計	六六〇、〇〇〇	六六〇、〇〇〇

二、最近の出廻狀況

昭和七年度（自昭和七年六月至昭和八年五月止）蓆蓙の實地出廻りは上海事件其他排日貨の爲め積出を阻まれ多少澁りたるやの觀ありしも前年度の古物の出廻りもありて大体輸出には支障なかりしものの如し、尤も滿洲大豆の輸入不圓滑にて產地に於ける油坊筋が本品に乘替へ搾油したるものの如く古物の上海に於ける賣物殆んど無き狀態にて僅に平湖の田舍に五—六千俵在りと云はるゝも上海に搬出すれば六兩見當となり即ち阪神沖の八圓七—八十錢に相當し七—八十錢の賴ありて不引合であり今の處出廻り皆無の姿なり、而して新物は玆に二—三日前に溫州種の走り見本の出廻りあり最近天候の回復に品質は良好なる模樣なるも溫州種の出廻りは二週間後なるが如く又一般各地よりの出廻り旺盛は六月中旬乃至七月初旬と觀らる本年度蓆蓙の出廻り豫想は滿洲大豆の輸入は引續き不圓滑と觀られ爲めに各產地油坊の消化量は增加するものの如く全收穫高の約三割即ち四十萬袋乃至四十五萬袋が市場に出廻るものと觀測せられ居れり。

三、本邦への輸出額

本年に於ける支那蓆蓙の輸入は先年に比して稍減少の傾向あり其の輸出見込は三十五—六萬袋乃至四十万袋と觀られ居れり

四、前年期に於ける生產額及國別輸出

前年期に於ける生產額は揚子江上流漢口地方は大水の被害に殆んど播種行はれず收穫に對しても絕望の噂され、蕪湖地方亦水害に禍せられて收穫激減大体本年同樣約六十六萬袋と豫想せられ居れり。

尙最近二ケ年間の輸出統計を示せば左の如し（單位袋）

地方別	昭和六年	昭和七年
鹿兒島	四、〇〇〇	、五〇〇
門司、若松	一二、八〇〇	一一、六四〇
宇品、宇野	、五〇〇	—
神戸	一一、二四〇	二、〇二〇
大阪	一三三、七九二	五三、三〇〇
四日市	二二六、七六六	七七、四五二
名古屋	二八、〇三四	六、八六一
橫濱	六三、七一四	一五、五八五
合計	四八〇、八四六	一六七、三五八

五、支那漢口地方に於ける葦蓙收量

當方面四月中降雨過多のため湖北省及湖南省洞庭湖附近の葦蓙作柄は四分作右兩地の收穫高は三—四十萬と觀らる。

六、支那蕪湖地方に於ける葦蓙收穫量

蕪湖地方本年の葦蓙收穫高約五十萬擔昨今出廻り近づき居れるも排日の爲め本那輸出の見込立たず支那當業者は何れも焦慮し目下種々便法を講じ輸出せんと運動し居るの現狀なるもの〻如し。

七、昭和五年度に於ける本邦府縣別葦蓙產出高

府縣別	作付反別（一クタール）	收穫高	價格
北海道	四、七七五・六〇	四九、六三三石	五八四、四一二円
青森	六七七・五五	七、五三四	一〇八、九七七
岩手	一七九・五〇	、九七一	一四、二九六
宮城	四二・五五	、二五一	一一、九一五
秋田	一〇九・三九	、七五二	九、一八九
山形	一〇八・二〇	、八六三	一二、八二七
福島	五一一・九三	五、一八〇	八一、七一三
茨城	九〇八・九三	九、一七七	一一一、七〇三
栃木	五一〇・二五	六、一九五	八一、二七五
群馬	八四・九九	、七三九	一二、五七五
埼玉	二一三・八二	一、八三六	三一、八七〇
千葉	一、六五五・〇一	一七、五〇八	二一三、〇三五
東京	一七・三六	、一二二	三、五六七
神奈川	六三四・七一	七、一九三	九八、九三六
新潟	九四四・四三	七、〇六九	一〇四、〇八四
富山	三〇・七四	、三三六	四、八六三
石川	二〇七・八七	一、九三五	二五、五八〇
福井	七六二・九四	六、五九〇	八九、七四四
山梨	一一〇・四八	一、四二一	二一、七五八
長野	一一〇・三八	、七七一	一四、九八一
岐阜	八八六・五一	八、五一七	一〇六、〇二三
靜岡	一、〇七三・二六	一一、四八〇	一四八、三一一
愛知	三、六九九・三七	三一、二〇四	三九七、八四二
三重	五、九六八・八六	三七、五三一	四七一、四一二

計	一、三三九、四九	三〇・一
沖縄県	一	—
鳥取県	一、六六四、〇一	三四・二
島根県	六二六、四三六	五〇・一
宮崎県	一、六六四、〇一	三四・二
大分県	一、六六四、〇一	三四・二
熊本県	一、六六四、〇一	三四・二

佐賀県	一、二三九、二三四	四九・一
福岡県	一、五九九、六二一	四一・一
愛知県	一、五九九、六二一	四一・一
滋賀県	一、五九九、六二一	四一・一
香川県	一、五九九、六二一	四一・一
徳島県	一、五九九、六二一	四一・一
山口県	一、五九九、六二一	四一・一
鳥取県	一、五九九、六二一	四一・一
岡山県	一、五九九、六二一	四一・一
島根県	一、五九九、六二一	四一・一
和歌山県	一、五九九、六二一	四一・一
奈良県	一、五九九、六二一	四一・一
兵庫県	一、五九九、六二一	四一・一
大阪府	一、五九九、六二一	四一・一
京都府	一、五九九、六二一	四一・一
滋賀県	一、五九九、六二一	四一・一

本市水田裏作に有利なる
蓫薹の栽培法に就て

一、氣候土質

蓫薹は寒暖何れの地方でも出來るが水田の裏作としては暖地がよろしく、土質は適應性が強いから差程撰ぶ要は無いが冲積地帶の砂壌土で余り乾燥し過ぎない所が最もよい。

二、品種

蓫薹には色々の品種が有るが奬勵品種は次の如きもので有る。

早生　山口黄種　山口縣産で油分は四二―四五%で菌核病に強く早生で五月下旬收穫が出來るが本種は當岐阜市の土壌には余り適し無い樣で有るから市農會からは原種は出さぬ。

中生　美濃改良種　本縣の杓子菜を改良したもので五月下旬から六月上旬に收穫が出來るが本種もあまり好適でない

晩生　愛知吾妻種　朝鮮系の普通種を改良したもので油分は四四―四八%で病害にも強く收量は最も多い品種で六月十日頃に收穫が出來本市の土質に最も良い品種で昭和八年度より此の品種に統一する事にした。

三、種子

採種　種子は極く少量で足るもので有るから農業基礎團体等で採種圃を經營して理想的の共同採種を行ふ事。

選種　採種法に注意し盆選及鹽水選（比重一、〇五）を行つたものを用ひ尙菌核病發生の多い場合は鹽水選後三斗式ボルドー液に浸種し充分攪拌して後淸水に洗へば効果がある。

四、育苗

播種期　蓫薹は播種期と收量との關係が極めて重大で有る從來の樣な遲播では決して多收穫は望めない其の時期は九月上旬が適期で遲くも中旬迄には播かねばならぬ早生種は特に病害に犯され易いから豫防驅除に注意せねばならぬ。

播種量　種子は極く小粒で一升三十萬粒以上であるから反當二勺の種子で充分である之を播床一坪に播付ける。

播種床　播種床は反當一坪で足りるから宅地の一部か或は畑を利用し農業基礎團体等で共同經營をするがよい、床はしろ淺耕とし土壌は細かく碎き且床面を平にせねばならぬ尙耕起する前に生石灰（又は草木灰）を撒布して病害豫防をせなければならぬ、早生種には特に發生し易いから種子と共に豫防法を請じねばならぬ。

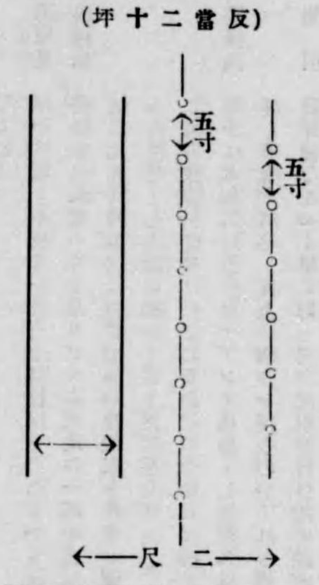
播種法　種子は木灰又は石灰をマブシテ見易くし摑指又は人さし指に少量づゝつかみひねる樣にして播床に均等に播種し平鍬で鎭壓し其上に細砂を種子のかくれる程度に覆ふ。

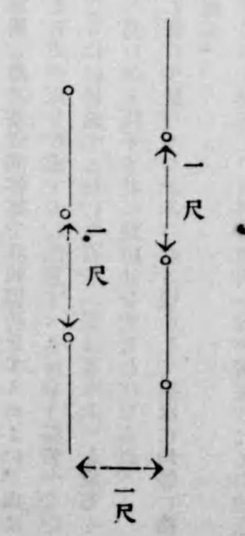
間引　發芽後なるべく早く第一回の間引を行ひ苗の疎密を均齊にする其後二、三回の間引を行ひ密生のための地上部の徒長を防ぐ。間引は全發芽數の大約五、六割を捨る位を標準とする。

假植　本縣の蓫薹は水田の稻刈跡に十月上中旬に播種し殆んど假植は行はないで間引する位ひであるから收量も少いが多收穫には早蒔をして二回假植をして强健な太苗を作らねばならぬ、第一回は九月下旬頃、第二回は十月中旬頃がよい、第一回假植の際苗を陶汰して一千五百本とし第二回の時更に陶汰して一千本とする。

（但之は晩生吾妻種の場合であるが他の早生なれば幾分増さねばならぬ）
其の間隔は次圖の通りである。

第一回假植



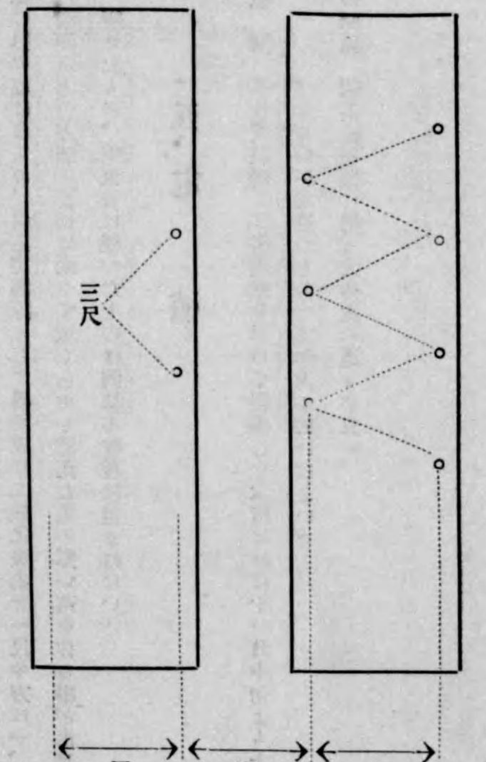


第二回假植

植方は一株宛植穴を穿つて直立植とす。
假植床も深耕の必要はなく植える場合も深植せぬが良い。
播種床　播種十月前鷄糞又は堆肥を撒布し淺耕して播種床を成形し其上に人糞尿を施して待肥とする。
鷄糞二貫　下肥五貫　灰三升（播種の際施す）
尙第二回假植迄に下肥の稀釋したものを間引毎に施す。
第一回假植　堆肥を待肥とし鰊粕（又は鷄糞）を細粉として活着後施す　堆肥二貫五、鰊粕二合（約三十匁余）
右の外時々下肥のうすいものを施す。
第二回假植　前回と同樣堆肥を待肥とし土壤を充分肥沃にして置き鰊粕を細粉として活着後過燐酸石灰と共に施す。
堆肥三貫、鰊粕三合（約五十匁）過燐酸石灰五勺（約二十匁）硫酸アンモニヤ六匁。
硫安は液肥として施し其外下肥を時々施す。
育苗中の病虫害育苗中には白斑病、不稔實病、根瘤病等の發病苗は除去することと虫害にはもんしろてふの幼虫（アヲムシ）大根のよむし（芽に喰入る）かぶらばちの幼虫（黒色の虫）よとうむし、蚜虫等の害をうけることが有るから驅除に努めねばならぬ、病虫害驅除として播種床に二硫化炭素を一尺平方に一、二滴を滴下すれば効果大である。
良苗の條件以上の方法によれば太くて短くしかも肥えた葉の厚い苗を作る事が出來る之が良苗の條件であつて細長いもの、瘠せたもの、病虫害に罹つたものは到底多收穫は望まれない。

五、定　植

定　植　期　多收穫栽培では播種期を早めて假植した太苗なれば十一月中旬より十二月上旬迄には必ず定植せなければならぬが其他のものでは年内に終ればよい。
定植の間隔　葉菜は密植に過ぎ大体次の通りが良い。



二四

（間隔を同じにする）

畦巾は約五尺にて畦間の溝巾は約一尺とす、五尺畦に二株（間隔三尺）の千鳥植とす

反當り所要本數

九〇〇本

面して此の植付本數は苗の大のものであるが中小の場合は千本より二千五百本位植付る要がある。

苗取　苗は一本宛叮嚀に取り根部の土はあまり振ひ落さない樣にして可成り揃つたものを撰び且苗は一日間に植付の數だけ取り決して置苗をせないことに努めねばならぬ。

植穴及栽植法　稻刈取後可成深耕し植付の場所に植穴を堀り其の部分は元肥に堆肥を施して土にきざみ込み其後五日間位待肥とし植付前更に土をきざみ其上に苗を直立して置いて土を覆ひおさへて置く特に注意すべきは決して深植せぬことである。

六、肥料

蓳蒻の肥料は成分から云へば窒素成分が最も多量に要し燐酸、加里成分は大体其の半分位でよい肥料の種類から云ふと自給肥料たる堆肥及鷄糞が最も良く堆肥は必ず施さねば到底多收穫は望めない又人糞尿も出來得るだけ施すが良い即ち以上の自給肥料を主肥として不足成分は金肥で補ふ樣にする、又石灰は反當一五―二〇貫位は必ず施す要がある。收量と所要成分の標準は次の通りである。

反當收量	窒素	燐酸	加里
二石ノ場合	三貫〇〇〇	一貫五〇〇	一貫五〇〇
三石ノ場合	四、五〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇
四石ノ場合	六、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇

三石收穫目的の施肥例

堆肥　三〇〇貫　人糞尿　一〇〇貫　硫安　六貫

過石　八貫　硫加　〇、五貫　大豆粕　一〇貫

施肥上注意せねばならぬ事項

1、元肥は植穴へ待肥として施し殊に堆肥の未熟な場合は可成早く施す事。

2、追肥は順次株の根元より遠ざけて施す事。

3、一月下旬の追肥は殆んど畦の中間へ廣く施す樣にする此の時期に晴天打續き土地が乾燥すれば減收する事有るに付注意せねばならぬ。

4、蓳蒻は米麥作と異つて開花期が長く約一ケ月間位で然も其間が生長の頂点で此の間肥抜けのする樣ではいけない、其れで「花を見てからの一肥」と云ふ言葉が有る位ひであるから生育の狀態によつては四月に至つても速

効性肥料を施しても差支はない。

5、要するに施肥の要領は萱蔘の特性を理解し實際の生育狀態に照して合理的にならしめる事に努めねばならぬ。

七、管　理

中耕除草土寄　中耕は一月下旬、三月中下旬頃の二回とし特に雜草の多い場合は除草をする、土寄は抽苔後地上部の動搖倒伏を防ぐため株を固定せしめる期間は三月下旬乃至四月上旬行ふのであるが土を根元に多く寄せることは不可である。

摘心　主枝が充分抽苔せない時に注意して主枝を摘心するは効果あれ共主枝の相當伸長してからは効果がない故に先其の必要は無いと云つて良い。

菌核病豫防　本圃の病虫害としては菌核病が强敵である之が防除法としては土寄前朝露の有る間に風化石灰を反當一五―二〇貫を撒布して後土寄すれば効果がある、又五月上中旬頃時々圃場を見廻し枯葉を掻き取るが良い。

八、收　穫

收穫期　萱蔘の刈取期は早過ぎの場合は含油量少く種實も小形で收量も少い又遲過ぎる場合は含油量も少く且調製の際種實が逸散する憂がある先づ適期とするは花梗の頂部一、二莢の中が一、二粒稍着色した頃がよい。

收穫　萱蔘の收穫は刈取拔取の兩方法であつて刈取の場合ば土砂の混入は少いが勞力を多く要し拔取の場合は後熟せしめ得ることと勞力を要せないが土砂の混入が多い故に何れも長短がある其の良法としては第一に早期拔取を行ひ乾燥後熟せしめ脫粒期前に第二に大型剪定鋏で早朝露のある中に根元を切り落し後脫粒するが良い。

調製包裝　乾燥せるものは可成降雨に合はせず土砂の混入に注意し篩選唐箕選等を行ひ夾雜物の除去に努め雨天續きの場合は莚に厚くひろげて乾燥する調製した種實は新しい叺に正味百斤入(約五斗)として叮嚀に俵裝して本會の斡旋規定により縣の檢査を受けて可成値賣りをせねばならぬ。

九、販　賣

萱蔘は米や麥とは趣を異にして製油原料として生產の全部が販賣せられるものであつて其の販賣の巧拙如何は生產者の收入に多大の關係があるものである。昭和八年の如きは個人販賣と共同販賣とは一叺に五拾錢以上壹圓の値開きがあつた、將來に於ても本會は之が共同販賣を行ひ生產者の利益を增加したいと考へて居る。

工藝農作物栽培法の概要

類種	性狀	氣候	土質	品種	播種期	播種量（反當）	定植期	栽植距離	栽植法
苧麻	宿根草にして稍木質の莖を有し高さ四尺乃至一丈余に達す	高温にして稍多濕なる氣候を可とす	肥沃にして排水良き地就中砂質壌土を可とす	白色苧麻（白皮、砂連、青心）綠色苧麻	三月—四月	坪當二才	四月—五月	二尺×一尺	種子は甚だ微細なれば細砂骨粉等に混じて播種し覆蓋を設け苗を養成し翌春本圃に定植す根分法に依る場合には三月頃吸枝を堀取り三四寸に切斷し定植す
亞麻	一年生草本にして莖細長く高さ二、三尺なり	冷涼にして濕氣多き氣候に適す	各種土壌	ベルギー種 ロシア種	四月—五月	五升—八升		三尺×條播	撒播し薄く覆土をなし後ローラーにて鎭壓す
黃麻	一年生草本にして高さ四、五尺乃至一丈余に達す	濕潤溫暖なる氣候に適す	同右	紅莖、綠莖	五月—六月	七合—一升		二尺×條播	所定の畦幅に條播し間引を行ひ株間四寸乃至五寸になす
蘭麻	一年生草本にして高さ六、七尺なり	溫暖なる氣候に適す	各種土壌就中砂土		五月頃	一升		二尺×條播	灰と混じて條播す深播不可なり
苧麻	宿根草にして稍木質の莖を有し高さ四尺乃至一丈余に達す	高温にして稍多濕なる氣候を可とす	肥沃にして排水良き地就中砂質壌土を可とす	白色苧麻（白皮、砂連、青心）綠色苧麻	三月—四月	坪當二才	四月—五月	二尺×一尺	種子は甚だ微細なれば細砂骨粉等に混じて播種し覆蓋を設け苗を養成し翌春本圃に定植す根分法に依る場合には三月頃吸枝を堀取り三四寸に切斷し定植す
亞麻	一年生草本にして莖細長く高さ二、三尺なり	冷涼にして濕氣多き氣候に適す	各種土壌	ベルギー種 ロシア種	四月—五月	五升—八升		三尺×條播	撒播し薄く覆土をなし後ローラーにて鎭壓す
黃麻	一年生草本にして高さ四、五尺乃至一丈余に達す	濕潤溫暖なる氣候に適す	同右	紅莖、綠莖	五月—六月	七合—一升		二尺×條播	所定の畦幅に條播し間引を行ひ株間四寸乃至五寸になす
蘭麻	一年生草本にして高さ六、七尺なり	溫暖なる氣候に適す	各種土壌就中砂土		五月頃	一升		二尺×條播	灰と混じて條播す深播不可なり
大麻	一年生草本にして高さ六、七尺乃至一丈余に達す	一般に空氣濕潤にして成熟期には乾燥する氣候によし	礫質壌土砂質壌土	山口種 吾妻種 九美濃改良種	九月上旬—十月	坪當二勺	十一月中旬—十二月	三尺—二尺×二尺五寸—一尺五寸	苗床に於て一、二回假植を行ひ强健なる苗を育成し本田は所定の畦間に一本宛直立に定植をなす
棉	一年生の草本にして高さ二、三尺なり	高温にして乾燥せる氣候を好む	各種土壌就中砂質壌土砂土	在來青木 在來赤木 紫蘇、朝鮮、在來棉、朝鮮陸地棉	五月上旬—下旬	五升—一斗		二尺×條播	種子を水に浸し藁灰又は煤類を塗布し麥條間を淺く耕し作條を切り播下す
大麻	一年生草本にして高さ六、七尺乃至一丈余に達す	一般に空氣濕潤にして成熟期には乾燥する氣候によし	礫質壌土砂質壌土	白（青）木 赤木	四月頃	五升—八升		二尺×條播	豫め種子を桶に入れ棒を以て攪拌し外皮を除去し所定の畦幅に作條を切り播種す

楮（カウゾ）	三椏（ミツマタ）	雁皮（ガンピ）	蘭（ラン）
落葉樹にして高さ二、三丈に達す通常は四、五尺なり	落葉灌木にして高さ六、七尺に達し三又に分枝す	落葉灌木にして高さ五、六尺なり	宿根草にして高さ四、五尺なり
温暖にして濕氣稍々多き所に良し	同右	温暖なる氣候に良し	春季温暖にして夏季快晴なる氣候になし
砂礫を混ずる壌土又は埴土排水良き地	各種土壌但し日光の直射を嫌ふ故日蔭地に良し	各種土壌	壌質埴土埴質壌土
眞楮、高楮、梶楮、要楮	青木 赤木		太蘭、細蘭
三月―五月	四月―五月	五月	三月―四月
三尺×二尺	三尺×二尺	三尺×二尺	五寸×五寸
冬季枝根を堀出し五、六寸に切り土中に植込み發芽したる苗木を一時假植し後本圃に定植す	普通苗圃又は麥條の間にて育苗し後開拓せる本圃に定植す	三椏と殆ど同樣	本田の周圍に豫め栽培しおきたる株を根際より刈取り發生せる新芽を保護しおき是を畑地にて育成し五六月頃根元より一時刈取り新芽を水田に移植增殖し水稻刈取後本田に定植す

七島蘭（シチトウラン）	莞（フトイ）	杞柳（コウリヤナギ）	糸瓜（ヘチマ）
宿根草にして高さ五、六尺に達す莖は三角柱となす	宿根草にして高さ五、六尺に達す	落葉灌木にして高さ五、六尺に達す	一年生の草本にして高さ四丈余に達す
同右	同右	温暖なる氣候に良し	高温を好む
同右	各種土壌	排水良好なる粘質壌土	各種土壌
		大葉、中葉、細葉	蓖麻 鶴首
			三月―四月
			一升―二升
五月―六月	二月―三月	十月―十一月	五月下旬
五寸―五寸	一尺五寸×一尺	二尺×一尺	三尺×二尺
五、六月頃畑地に苗を植え翌春刈取りて新芽を發生せしめ株分けして本田に定植す	苗を堀取り株分けして一株五、六本宛に植付く	前年度の枝條を一尺内外に切り先端を鋭く削り五寸位土中に挿入す	直播すること有り高さ四、五尺の棚に枝を誘引す乾燥にすぎる場合には灌水をなす

落花生（ラククワセイ）	胡麻（ゴマ）	漆樹（ウルシ）	荏（エゴマ）
一年生草本にして叢生するもの、直立するものとあり	一年生草本にして高さ三、四尺なり	落葉樹にして高さ三丈余に達す	一年生草本にして高さ三、四尺なり
高温にして乾燥せるを好む	各種の氣候に良し	稍寒冷を好む	温暖なるを可とす
輕鬆にして膨軟なる土壌、腐埴質火山灰土等	各種土壌	排水良き肥沃なる土地、山間地、河岸等	土質を選ばざれども就中砂質壌土
大粒種	白胡麻 黄胡麻 黒胡麻		
四月—五月	四月—五月	三月—四月	四月—五月
四升	四合—五合	坪當三合—四合	坪當一合五勺内外
		三月—四月	六月—七月
二尺五寸×一尺	二尺×條播	六尺×六尺	二尺—一尺
普通は麥の畦間に播下す	種子は細砂又は灰等に混じて麥の條間に播種し薄く覆土す	播種後九月頃一回假植す根分法に依ることも有り	播種後一回位假植をなし草丈一丈位の時に定植す

甘藷（サツマイモ）	甜菜（サトウダイコン）	藍（アイ）
温帯地方にては一年生高さ五、六尺乃至一丈余に達す	一年生の草本	一年生草本にして高さ二、三尺なり
高溫多濕を好む	冷涼を好む	高溫を好む
砂土又は砂質壌土	砂質壌土又は壌土	同右
竹蔗、紅蔗、ローズバンブー、エローバンブー	在來種、西洋種	青莖小千本、赤莖小千本、百貫、上粉、百貫、小上粉
四月—五月	五月中旬	二月—三月
坪當一合—二合	三升	坪當五勺
三月頃		五月—六月
五間×二間	一尺—二尺×五寸—一尺	二尺×一尺五寸
直播に依り育成せる砧木に三月又は九月頃良穗を接木す	條播又は點播す	普通麥條間を耕起し一株七八本宛插植す

插苗法に依る、前年度の穗を貯へおき五寸乃至一尺位の長さに切り斜に插植す

蒟蒻芋（コンニヤクイモ）	罌粟（ケシ）	除虫菊（ジョチウギク）	人参（ニンジン）
多年生草本にして地下に球莖を有す	二年生草本にして高さ三、四尺なり	宿根草にして高さ二尺余	宿根草にして高さ二尺なり
各種の氣候に良し	寒冷乾燥なる氣候に良し	温暖なる氣候を好む	冷涼なる氣候を好み過濕を嫌ふ
砂質壌土又は壌土	砂質壌土	排水良好なる砂質壌土	排水良好なる腐植質壌土又は傾斜地
赤莖、青莖	三島、福井	白花種、紅花種	
	十月―十一月	三月―四月、九月―十月	十一月―十二月
	一合―二合	一坪當一合―二合	一合―一合五勺
四月―五月		十月頃	十一月頃
二尺×一尺	三尺―條播	二尺×一尺	一尺×五寸
麥條間其他を耕し種球を栽植し肥培す	稻刈取後耕起整地し種子は灰又は砂に混じて播種し薄く覆土す	種子は砂又は灰等に混じ叮嚀に播き三、四月頃假植をなし秋季本圃に定植す排水良好にする爲め高畦となす	預め深耕し肥料と土壌とを交互に重ね置き後之を良く混和し整地播種す朝鮮にては移植法に依る

薄荷（ハッカ）	忽布（ホップ）	泊莽蘭（サブラン）	黄蓮（ワウレン）
宿根草にして高さ二、三尺なり	蔓性の宿根草にして高さ三四丈に達す	球根草にして高さ一尺内外	宿根草にして高さ五寸乃至一尺
温暖にして乾燥する氣候に良し	各種氣候に良し	高温なる氣候を好む	冷涼なる氣候を好む
排水良好なる壌土又は埴質壌土	排水良好なる地	砂質壌土	排水良好なる壌土
赤丸葉、赤柳葉、青丸葉、青柳葉、			芹黄蓮、菊黄蓮
			十一月―十二月
			一坪當二勺―六勺
四月頃（分苗法）十二月頃（根分法）	四月頃	九月頃	十月―十一月
二尺×五寸	一坪當二本	五寸×五寸	四尺―一尺
根分法に依る場合には白色の新根のみを堀取り四五寸に切斷し一株二、三本宛栽植す分苗法に依る場合に優良なる株を二、三本宛に分割し栽植す	春季强健なる地下莖を切りて栽植す	前年の優良なる種球を栽植す	細砂に混じ苗床に播種し二年間位苗床にて育成し三年目に本圃に一株四、五本宛定植す

苧麻	温帯地方にては一年生草本高さ六尺内外	各種氣候に良し	四月上旬	苗床に播種し本葉の發生するに至つて本畑に定植す直播することもあり
茶	常緑多年生灌木	高温適温湿を好む	十一月頃 三月―四月	播種法に輪播、四角播、三角播、條播等あり、壓條により繁殖することも有り
煙草	一年生草本にして高さ五、六尺に達す	温暖にして多少濕氣あるを可とす	三斗―五斗	普通苗床に灰又は砂等に混じて播種し本葉七、十枚になれる時麥條間に定植す
		排水良好なる砂質壌土又は壌土	坪當五夕四月―五月	
		排水良好なる壌土埴質壌土火山灰土	二尺×一尺	
	支那茶、（丸葉柳葉、縮緬葉）印度茶、印度支那茶	支那茶、（丸葉柳葉、縮緬葉）印度茶、印度支那茶	五月頃 六尺×四尺	
	國府、水府、秦野、達摩、霜草其他外國種	國府、水府、秦野、達摩、霜草其他外國種	四月上旬	
	十月―二月	十一月頃 三月―四月		

種類	施肥及管理	收穫期	收穫調製	用途	主産地	備考
藁	一例、堆肥三〇〇貫、大豆粕八貫、人糞尿一〇〇貫、棉實粕五貫、硫安四貫、過燐酸五貫、硫配加里二貫、煙炭二〇貫、石灰二〇貫、以上の中三分の一位を追肥とす 中耕、除草、土寄、摘心をなす	五月―六月	刈取圃場にて擾げ乾燥し種子を打落す	燈用、機械用、飼料、食用肥料	岐阜 福岡 滋賀 三重 愛知	
大麻	一例、厩肥二八〇貫、荏粕三二貫、木灰一六貫、鰊粕一一貫、下肥一九〇〇貫、以上の大部分を基肥とし殘りを追肥とす、一、二回中耕、除草、間引をなし特に强風の地方は防風の設備をなす	七月中旬―八月上旬	莖を熱湯に二、三分間浸し後乾燥水洗し農閑期に堆積醱酵せしめて皮を剝く	織物原料、網類、種子は油料、飼料	栃木 廣島 長野	輪栽又は連栽す
苧麻	一例、苗床―堆肥七貫、棉實粕二合、下肥九升、煙炭三升、本圃―堆肥三〇〇貫、大豆粕二〇貫、過燐酸石灰五貫、硫酸加里二五貫、下肥一五〇貫、糞灰五〇〇貫、三月下旬中耕、除草、追肥をなし、五月上旬缺損株を補植し冬期は防寒の設備をなす	六月下旬―十一月中旬（三回位）	刈取れる莖を水に浸し皮を剝ぎ竹篦にて表皮を除く機械剝皮法に依る方成績良好なり	織物原料、網類、蚊帳、レース、カーテン	栃木 宮崎 石川	吸枝とは地下を匍匐し三、四月頃新芽を地上に伸長する根によく似たる關節を有する一種の莖なり、定植後四、五年目に更新す
亞麻	前作物に對し充分施肥し亞麻には殆んど施肥せずして栽培す	七月―八月	莖を十日間位浸水し後剝皮をなす、普通は浸水後乾燥し其の儘にて販賣す	織物用、テント、亞麻仁油、油粕は飼料	北海道	連作を嫌ふ故輪作をなす

黄麻（ツナソ）	堆肥、人糞尿、木灰等、除草、中耕を行ふ	八月中旬―九月上旬	苧麻に準ず
蔴麻（イチビ）	堆肥、油粕を播種前に施す一、二回間引を行ふ	八月―九月	同
楮（カウゾ）	肥料は殆んど施さざるも時に屎肥人糞尿を少量施用す中耕、除草、敷草、整枝をなす	植付後三年目の十二月―一月	刈取れる枝を蒸し剝皮乾燥し之を水に浸し小刀にて表皮を除き洗滌乾燥す
三椏（ミツマタ）	肥料は殆んど施さず所々に赤楊樹を植え日覆をなし、敷藁、灌水をなす	植付後三年目の十二月―三月	同
			右
ズック類敷物			網、網類
大分熊本			各地
			三椏の種子は人畜に有害なり

雁皮（ガンピ）	薄き液肥を施す時々除草をなす	植付は三年目三月―九月	刈取れる枝を剝皮し粗皮を削り清流に浸して後乾燥す
			同
			右
藺（イ）	一例、堆肥三〇〇貫（元）大豆粕一〇〇貫（元）八〇貫（追）硫安二貫（元）二〇貫（追）過燐酸石灰三貫（元）三貫（追）藁灰三四貫（元）灌水は常に一寸内外となし厳寒の候は成る可く深水とす、三月下旬一旦落水して田面を照温す、蝗及青虫の駆除を行ふ	七月中旬―下旬	刈取れる茎を粘土をとかしたる泥水中に浸し後直ちに天日にて乾燥す
			畳表
			岡山
			輪作を行ふを可とす泥田深田にも栽培さる
七島藺（シチトウイ）	一例、紫雲英四〇〇貫、油粕三二貫、下肥三〇〇貫、以上を三回に分施す植付の際海草、藁等を敷込み摘心を行ふ、本田収穫後は畑焼をなす	九月―十月	刈取れる茎を従に二つに割り又は其の儘にて乾燥す
			畳表敷物
			大分沖縄熊本静岡
			海岸の潮入田にも栽培さる
莞（フトイ）	大豆粕、硫安等管理は藺に準ず	七月―八月十一月中下旬	刈取れる茎を四尺位に切揃へ直ちに乾燥す
			莚
			静岡

杞柳（コウリヤナギ）	糸瓜（ヘチマ）	落花生（ラッカセイ）	胡麻（ゴマ）
人糞尿、大豆粕、堆肥等、中耕、除草を行ふ	一例、堆肥一五〇貫人糞尿一五〇貫、過燐配石灰七貫、糞灰七貫、以上を四回位ひに分施す中耕、除草、敷藁をなす	少量の堆肥と草木灰とを混じて施す中耕、根寄を行ふ	堆肥、下肥、油粕、灰等中耕、除草、間引、土寄を行ふ
四月―五月 八月―九月	八月下旬 ―十一月	十一月頃	八月―九月
刈取れる枝を泥中に挿し置き後剝皮す	果實を水中に浸し果肉を去り乾燥す又莖より液汁を取る	堀取りて乾燥す	刈取りて其儘乾しさくを打ちて種子を脫す
籠類 椅子 製紙用	洗滌用 化粧用 藥用	食用 肥料 飼料	食用 製油原料 香味料
兵庫 長野 高知	靜岡 群馬 德島	千葉 神奈川	茨城 千葉

荏（エゴマ）	漆樹（ウルシ）	櫨（ハゼ）	甘蔗（サトウキビ）
厩肥、下肥、鰮粕等中耕、除草、土寄を行ふ	厩肥、塵芥、液肥、油粕等時々除草を行ふ	大豆粕、油粕、醬油粕等を春秋二期に施す、剪定、整枝、摘心、接替を行ふ	堆肥、油粕、過燐酸石灰、草木灰等、中耕、除草を行ふ
九月―十月	四、五年目の七月―十月	四、五年目の十月―十一月	十月―十二月
乾燥し脫實す	枝幹に目傷を附して樹液を取る、又果實を打落し製蠟す	果實を良く乾燥し貯藏し後製蠟す	鎌又は鍬にて根元より刈取り直に製糖す
塗布用 肥料	染料 器具 製蠟	製蠟 器具材 髪付油	製糖用 食用
栃木	栃木 石川	福岡 長崎	臺灣 沖繩 鹿兒島
	雌雄異株、雄株の漆の方良質	雌雄異株	

	甜菜（ナトウダイコン）	蔘藍（アイ）	蒟蒻芋（コンニヤクイモ）	蜀黍（シヨ）
施肥法	堆肥、骸肥、智利硝石、硫安、緑肥等、中耕、除草を行ふ	鰊粕、大豆粕、智利硝石等一例、鰊粕五五貫、堆肥一〇〇貫、以上を五回位に分施す中耕、除草、土寄を行ふ	堆肥、油粕、人糞尿、敷草等中耕、除草、追肥、日光強き場合は日覆をなす	人糞尿、乾鰯等中耕、除草、追肥をなす
播種	十月下旬—十一月中旬	七月—十月（三回位）	十月中旬十一月中旬	五月上旬—六月上旬
収穫	鍬又は手を以て叮嚀に堀取り泥土を除去し鎌にて根冠及根端を剪除す	根際より刈取り乾燥し貯藏し冬季堆積醱酵して葉となし臼に入れて搗きて藍玉とす	芋を洗滌し陽乾す	さくに目傷を附し浸出せる液汁を集め之を乾燥す
用途	製糖用飼料	染料	製粉用食用	阿片製造薬用
産地	北海道	徳島三重福岡愛知	群馬廣島岡山	和歌山大阪
栽培上の注意	連作を嫌ふ	輪作をなす事		罌粟の栽培販賣は政府の指示を受くるを要す

	除虫菊（ジヨチウギク）	人参（ニンジン）	薄荷（ハツカ）	忽布（ホツプ）
施肥法	人糞尿、堆肥、過燐酸石灰、木灰等一例、大豆粕五貫（元）棉實粕五貫（追）過石二、五貫（元）二、五貫（追）人糞尿一〇〇貫（元）二〇〇貫（追）藁灰一〇貫（元）堆肥三〇〇〇貫（元）中耕、除草をなす	人糞尿、堆肥、過燐酸石灰、木灰等中耕、除草、間引、花蕾摘除、排水をなす	一例、堆肥三〇〇貫（元）人糞尿一五貫（元）三五貫（追）棉實粕二五貫（追）大豆粕一五貫（元）一〇貫（追）藁灰五貫（元）一五貫（追）中耕、除草をなし冬季寒氣烈しき場合には防寒の設備をなす	厩肥、人糞尿等支柱を建て、枝を誘引し整枝心止を行ふ
播種	播種後三年目の五月—六月	播種後四五年目の九月頃	六月上旬—八月上旬十一月中旬	八月下旬—九月上旬
収穫	摘採又は刈取れる花を蔭乾し礎臼又は藥研にて粉砕す	根部を洗滌し煮熱乾燥す	刈取れる塁を繩等にてつるし風通し良き所に蔭干す	雌花滿開して黄變する時花を摘探し乾燥す
用途	薬用	同右	薬用清涼劑	ビール醸造用薬用
産地	北海道廣島和歌山	朝鮮長野島根	北海道廣島岡山	北海道長野
栽培上の注意		連作を嫌ふ調製法に依り紅蔘と白蔘を得す	三、四年目に輪作す	九年目位に更新改植す

	沙芙蘭（サフラン）	黄蓮（ワウレン）	蔴（タウマ）麻	茶（チヤ）
栽培法	堆肥、油粕、大豆粕、人糞尿等除草、芽掻きを行ふ	堆肥、人糞尿、油粕等を春秋二回施す、除草、日覆をなす	堆肥、人糞尿中耕、除草をなす	下肥、油粕等を數回施す中耕、除草をなし播種の初年には防風の設備をなし四年目頃より一回宛剪枝をなす
播種期	十月―十一月	播種後四年目の九月―十月	八月中旬	四年目の四月上旬後約四十日毎に二番摘三番摘をなす
収穫法	柱頭の着色部を摘採し乾燥す	堀取れる根を直に乾燥す	果實を切取りさくを裂開して種子を集む	普通生葉を蒸し揉に放冷し後焙爐に移し反轉搓揉し乾燥す、紅茶は生葉を日光にあて萎凋せしめたる後揉み桶に入れて醱酵後乾燥す
用途	薬用	薬用	薬用	飲用
産地	兵庫 佐賀 廣島	兵庫	静岡 三重 京都	
備考		連作を忌み日光の直射を忌むため桑園其他の下作として栽培さるゝこと多し	樹勢衰ふれば台刈を行ふ	

	煙草	棉
栽培法	一例、堆肥二〇〇貫、草木灰二〇貫人糞尿二〇貫、大豆粕七貫、油粕三〇貫、以上の中五割を基肥として殘りを二、三回に分施す中耕、除草、土入、摘心、摘芽をなす	堆肥、魚肥、木灰、骨粉等一例、堆肥三〇〇貫、鰊粕二〇貫硫酸加里四貫、人糞尿三〇〇貫、過燐酸石灰五貫以上の中三分の一を追肥とす中耕、除草、間引、摘心、摘芽、灌漑をなす
播種期	八月―十月	九月上旬―十一月上旬
収穫法	成熟せる葉を順次一枚宛摘採するか又は收穫適度の幹を刈取りて摘葉し天日又は火力にて徐々に乾燥し濕氣を加へ展葉を行ひ調製す	開絮せるさくより順次摘採し竹簀上に擴げて充分陽乾す
用途	喫煙用	織物原料
産地	鹿兒島 栃木 茨城	茨城 埼玉 千葉 廣島
備考	連作を嫌ふ、耕作希望者は政府の許可を受くるを要す	綿火藥種子は製油原料肥料
		棉は塩分に對する抵抗力強き爲塩害地に栽培さるゝこと有り

都市農業の合理化

岐阜市農會の事業

一、農作物品種改良事業
二、園藝の高等栽培の奬勵
三、農産物の商品化共同販賣斡旋
四、水稻經濟試驗地
五、蔬菜試作場
六、市民農園
七、岐阜花卉市場
八、夜間青物市場
九、肥料の自給堆肥廐肥綠肥の增殖
一〇、農作物病虫害豫防驅除
一一、宅地利用有畜農業の奬勵
一二、家庭蔬菜園の設置奬勵
一三、農家救濟社會事業
一四、農業施設に關する政府への要望

岐阜市農會報告

第一號　經濟試驗地成績報告
第二號　水田裏作の利用　蔓薹栽培改良成績報告
第三號　日本都市農業に關する研究　都市農會の重要性に就て　第一報

岐阜市農會叢書

		定價	送料
第一號	岐阜市に於ける夜間青物市場	六〇錢	四錢
第二號	花の作り方	七〇錢	六錢
第三號	肥料の成分	非賣品	二錢
第四號	家庭蔬菜園の經營	仝	二錢

昭和八年十二月十五日印刷納本
昭和八年十二月二十日發　行

【非賣品】

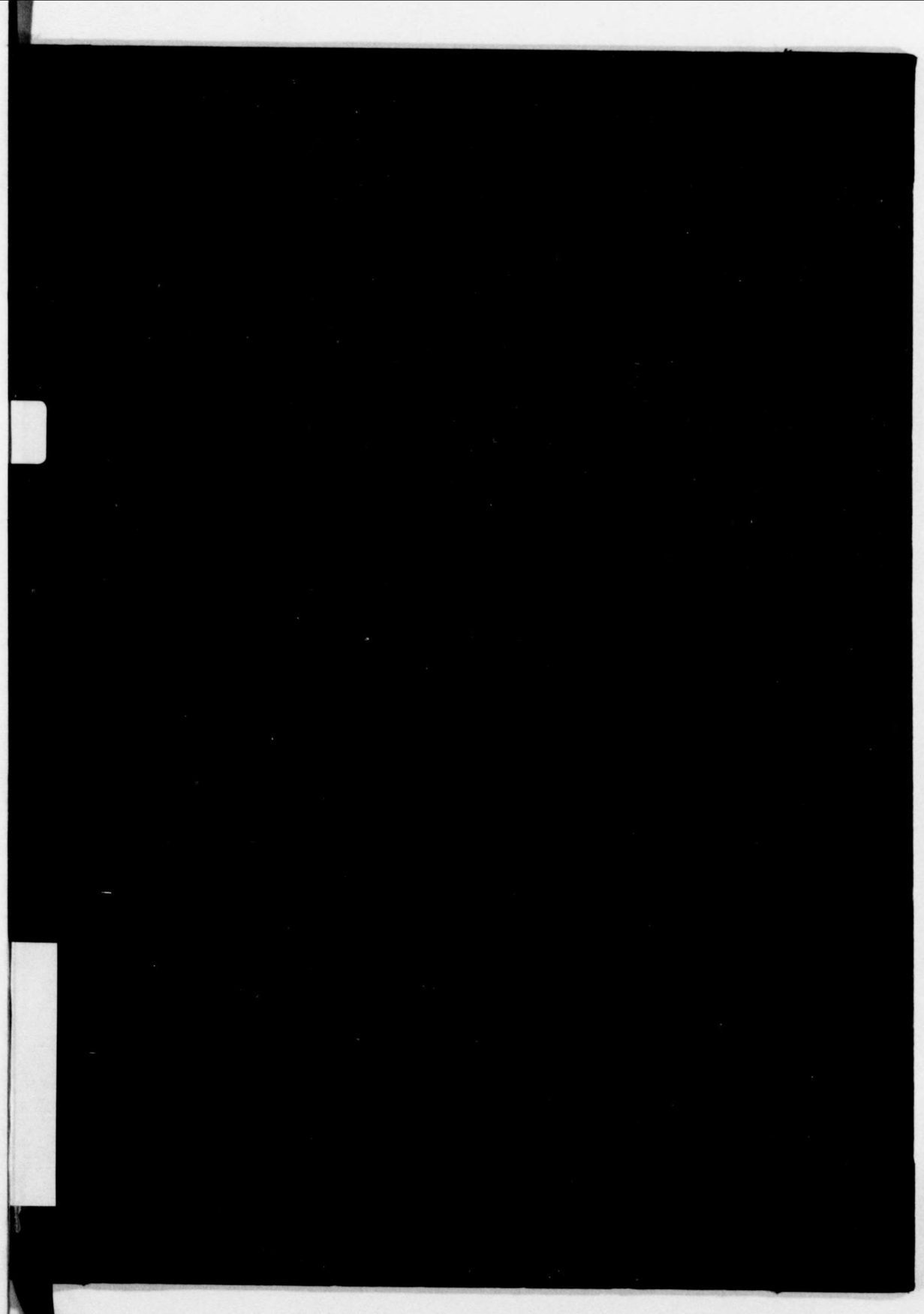
著者　岐阜縣本巢郡船木村　加藤信幸

發行人　岐阜市松屋町四十六番地　下條操

印刷人　岐阜市松屋町四十六番地

印刷所　大正社印刷所
電話一四四六番

發行所　岐阜市農會
市役所勸業課內
電話三三〇〇番
三三〇一番
三三〇二番
三三〇三番

14.2
102

終